

支援プログラム

作成日 令和7年7月1日

児童発達支援センターことのは
児童発達支援

営業時間9:00-17:30
送迎の実施 なし

北海道子ども療育支援株式会社 経営理念

私たちは、すべての子どもたちが社会から大切にされ、幸せに生きられる社会の実現を目指します。そのために、高度な専門性を活かした福祉サービスの提供と創造的な新たな取り組みを通じて、地域社会に貢献するとともに、人々から求められる企業であり続けます。



支援方針



専門職による支援

言語聴覚士・心理士・保育士・理学療法士などの専門職を配置してお子様の発達に応じた支援を提供します。

親子通所

愛着関係の育ちを大切にしたいと考えております。また、お子様の成長をともに見守っていききたいと考えており、親子通所を基本としています。

個別支援と小集団支援

お子さんの発達と保護者さまのニーズに合わせて個別支援、小集団支援を実施いたします。

□家族支援

家族が安心して子育てができるよう、地域や家庭の状況を踏まえ、保護者の気持ちを受け止め、保護者の自己決定を尊重しながら、きょうだいを含めた家族の負担を軽減していくための物理的・心理的支援を行います。

- ・親子通所、行事への保護者参加
- ・保護者向け講習会（ペアレントプログラムなど）
- ・保護者交流会
- ・保護者との面談

□地域支援

幼稚園・保育園・こども園、学校、福祉事業所などに専門のスタッフがお伺いし、お子様の発達のことや支援について一緒に考えさせていただきます。また、支援者向けの研修会等の開催を行っています。

□移行支援

地域の幼稚園・保育園等と連携を密にとり、母集団となる関係機関と共に良い支援を模索できるよう、体制を構築していきます。

言語・コミュニケーション

遊びや他者との関わりの中で、「自分の感じていることを伝えたい」という気持ちを育てます。言語のみならず、非言語コミュニケーションも活用していきます。

- ・「楽しい」「もう一度遊びたい」という気持ちを引き出せるような遊び
- ・てあそび、うた、絵本
- ・指さし、絵カード、ジェスチャーを用いた表出方法
- ・言語・心理職員による個別



認知・行動

遊びを通して、環境から情報を修得し、行動につなげるという認知機能の発達を促します。認知・行動の手がかりとなるような概念を形成していけるよう、様々な体験活動を大切にします。

- ・「見る・聞く・触る」
- ・「色、大きさ、数、形、重さ、音」等を意識した遊び、絵本、うた
- ・時間を意識した活動
- ・言語・心理個別



おもな行事

動物園遠足
ダンス体験交流会
避難訓練
保護者向け講習会（ペアレントプログラムなど）
保護者交流会

職員の質の向上

専門的な知識技能向上を目的に、年間計画に基づき職員研修を実施しています。

- ・「子どもの発達と遊びについて」
- ・「ケースを通して家族支援について考える」
- ・「WISC-Vについて」
- ・身体拘束・虐待防止研修
- ・感染症対策研修

連携

お子さんが通う幼稚園、保育施設や就園・就学先とも連携を密にとり、より効果的な支援を提供致します。

人間関係・社会性

ひととの関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成します。遊びを通して集団参加を促し、社会性の発達を目指します。また、気持ちや情動の調整を大人と一緒にを行います。

- ・安心、安全な環境設定
- ・お友だちや大人を意識できるような環境設定
- ・簡単なルールを体験できる遊び
- ・大人が気持ちに寄り添い、代弁することによる気持ちの調整

運動・感覚

遊びの中で、自分の体を知り、使い方を身に付けていきます。姿勢、運動・動作の基本的技能の向上を目指します。一人ひとりの感覚の特性を踏まえて支援します。

- ・親子あそび、リズム、てあそび
- ・感触あそび
- ・製作
- ・遊具あそび、操作玩具
- ・サーキット
- ・水遊び



健康・生活

通所を通して生活リズムの安定を図り健康に過ごします。また、給食の提供を通じて食事に対しての支援を行います。また、半年を目途に嘱託医による内科検診を実施しており、児童の健康状態の確認を行っています。

- 日常生活動作を身に付けていきます。
- ・健康状態の把握
 - ・見通しを持った生活
 - ・衣服の着替え、着脱
 - ・手洗い
 - ・排泄
 - ・健康に関する相談
 - ・給食による食事指導